

国語科（国語総合）学習指導案

指導者

印

- 1 履修単位数 6単位のうち古典3単位
- 2 実施日時
- 3 学 級 1学年
- 4 使用教科書 『高等学校 改訂版 標準国語総合』（第一学習社）
- 5 単元（題材）名 登場人物の人物像を考え、心情を読み深めて、手紙を書く（歌物語『伊勢物語』筒井筒）

6 単元設定の理由

生徒は、これまでの「読むこと」の学習で、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう力を身に付けてきた。この教材「筒井筒」は、「恋愛・結婚」が題材となっており、簡潔な文章の中に、和歌や登場人物の言動、当時の恋愛観・結婚観など様々な解釈を可能にする奥深い世界が描かれている。班で手紙を書くという活動を通して、登場人物の心情の把握と人物像の考察を行わせ、相手の立場に立って言葉を選びながら手紙を書くよう促したい。また、班ごとに手紙を交換することで、様々な角度から心情を読み深める契機にしたいと考えて設定した。

7 単元の目標 領域【読むこと】

- 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。
(関心・意欲・態度)
- 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
(読む能力「C 読むこと」の(1)のウ)
- 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解する。
(知識・理解)〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のイの(ア))

8 取り上げる言語活動（学習活動）

班で手紙を書くという活動を通して、様々な角度から検討して登場人物の人物像をまとめ、心情の読みを深めること。

9 単元の評価基準

- A 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。
(関心・意欲・態度)
- B 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。
(読む能力)
- C 歌物語における和歌の修辞や語句の用い方について理解している。
(知識・理解)

10 指導計画

次	学 習 活 動	評価の基準と方法
第1次 4時間	○文章を表現に即して読みとる。 ・通読、意味段落分け、主語の把握をする。 ・各段落の話の展開や登場人物の心情を読みとる。 ・和歌の修辞や語句の用い方について解説を聞く。	評価基準C 「記述の点検」
第2次 2時間	○各班に分かれ、手紙を書く準備をする。 ・登場人物別に班を編成し、心情のマップ作りをする。 ・マップをもとに、担当した登場人物の人物像を考察し、着目した心情を手紙文にまとめる。	評価基準A 「行動の観察」

第3次 1時間	○各班の手紙を発表し、自己評価と他者評価を行い、返事の内容を検討する。(本時1／1)	評価規準B 「記述の分析」
第4次 1時間	○各班で返事の内容を検討し、返事を交換する。 ・前回の発表を踏まえ、返事を検討し、手紙文にまとめて発表する。	評価規準B 「記述の分析」

11 本時の目標と評価基準

発表の聞き取りを通して、登場人物の心情について読みを深めることができる。(読む能力)

12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準と 実際	評価方法
導入 5分	・本時の目標と流れを確認する。	・予め班活動の形態にしておく。 ・想定した人物像を電子黒板に表示する。 ・目標を示して説明する。		
展開 40分	・班ごとに手紙を発表する。 〈順番〉 男①→女②→男③→女④→男⑤→ 女⑥→男⑦→高安の女⑧→男⑨→ 高安の女⑩ ・発表を聞きながら、ワークシートに印象に残った言葉と評価を記入する。 ・発表した手紙を交換する。 ・相手の手紙に対して、自分の意見や感想を書く。	・各班の発表者に、前時に作成した手紙を発表させる。 ・ワークシートに印象に残った言葉と評価を記入させる。 ・班を組み合わせ、発表した手紙を交換させる。 一班（男）と二班（女） 三班（男）と四班（女） 五班（男）と六班（女） 七班（男）と八班（高安の女） 九班（男）と十班（高安の女） ・相手の手紙に対して、自分の意見や感想を書かせる。	「読む能力」 発表の聞き取りを通して、登場人物の心情について読みを深めることができる。 Cの生徒への手立て 聞き取りがうまくできていない生徒には、心情を表す言葉に注意し、記入するように促す。	・記述の点検
まとめ 5分	・本時の評価をする。 ・次回の予告を聞く。	・ループリックを用い、自己評価させる。 ・次時への意識付けをさせる。		